

「JCSS 校正方法と不確かさに関する表現 (JCG200)」改正要旨

認定センターJCSS 事務局

1. 改正理由

2010年11月に「校正における不確かさのILAC方針 (ILAC P14:11/2010)」が発行されたことから、信頼の水準約95%に対応させると共に、ISO/IEC Guide 99:2007 (VIM3)の英和対訳版、ISO/IEC Guide 98-3:2008 (GUM)の表現との整合を図る等、所要の見直しを行うものである。

2. 主な改正内容

- ◆原文 EA-4/02 (Expression of Uncertainty of Measurement in Calibration) の英文と異なる訳文が付されている部分について見直す。
- ◆原文に該当する事項がない文章、式、図表等は、太点線下線を追加する。原文は、包含係数 $k=2$ ベースであるが、ILAC P14は信頼の水準約95%ベースであることから、原文を変更する必要がある部分(1.2項、A7項、E2項及び表E.1の4か所)は、原文と異なる文章、表とする。
- ◆ISO/IEC Guide 99:2007 (VIM 3)の英和対訳版に基づく用語と整合を図る。
(例：『測定量』→『測定対象量』、『計測』→『測定』等。)
- ◆信頼の水準約95%対応のため、必要な指針を追加する。主な項目は、次のとおり。
 - ①5.3項：信頼性が満たされる条件(10回以上の繰り返し観測を基にしたタイプA評価又はタイプB評価から得ていること。)
 - ②5.5項：付録Eの方法を用いる際の留意事項(産業界における不確かさの利用において、必ずしも有用とならないことがあること。)
 - ③5.7項(新設)：実際の出力推定値の確率分布を正確に推定することが困難なときの措置、出力推定値の確率分布が矩形分布又は三角形分布を仮定できるときの包含係数等
 - ④6.2項及び6.3項：校正証明書における測定の不確かさの表明において、付記する注釈のうち最も簡潔な記載内容
 - ⑤E.2項：第三者の校正事業者が発行した校正証明書に記載された包含係数 $k=2$ のときの、その校正の不確かさの自由度(∞ であると想定)
 - ⑥E.2項表E.1：様々な有効自由度に対する包含係数に対応する包含確率を95%に訂正(原文は95.45%)
 - ⑦E.3項(新設)：約95%の包含確率を正確に求めることが困難なときの措置
- ◆JCSS技術的要求事項適用指針でガイドを定めている内容について削除する(A12項)。

3. 改正部分の詳細

改正部分の詳細については、新旧対照表を参照のこと。

以 上